

平成20年4月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

共に歩み、互いに発展する博物館を目指して

館長 藤野 龍宏

先日、私の大学時代の同期生で奈良県立橿原考古学研究所副所長兼附属博物館長を務める松田真一氏が上京のついでに当館を訪れました。お互い、県立館の館長として、館の運営に関することや、学生時代の思い出などを語るうち、友の会にも話が及びました。以下は彼から聞いた話と、ホームページ等の資料によるものです。

「奈良県立橿原考古学研究所友史会」という名の友の会は、昭和30年（1955年）に大和歴史館友史会として発足。高松塚、藤ノ木古墳の発掘という考古学上の重要な発見とともに会員数を増やし、2007年2月現在会員数1,425名（うち首都圏の会員250名）を数えるそうです。事業は、毎月1回の例会（講座、講演会、見学会等）に加え、年1回の全国遺跡見学会、年1回の世界遺跡の旅、東京で19年間に73回、名古屋で5年間に9回を数える大和考古学講座、ミュージアムショップの運営など、かなり多彩です。全国に散らばる会員が、特別展図録等の出版物の強力な購入者にもなっており、館の収入増に大きく貢献しているそうです。

研究所として、博物館としての長い歴史と伝統を有し、全国に名高い橿考研とその附属博物館の事例であり、単純な比較は出来ませんが、大きな刺激を受けました。

他館の友の会の紹介が長くなりましたが、今国会に提出予定でありながら、未だに提出されていない法律に博物館法改正案があります。この中には、博物館は生涯学習機関であり、市民の学習活動を支援するという考え方が明確に盛り込まれることになっています。友の会活動はこの「市民の学習活動を支援する」ための典型的な仕組みだといえます。しかしながら、友の会は、講師の派遣や紹介など、一方的に支援される対象に止まらず、博物館を支援する役割も担っています。

当館においても、ちらしや割引券のお知り合いへの配付や、ミュージアムグッズフェアでの販売をご担当いただくなど、様々な形で館の運営をご支援いただきました。特に、会員以外にも開かれた講演会等の事業には、お陰様で多くの県民の方々も参加することができました。これは県民の学習活動を支援するという博物館本来の役割の一部を、友の会が直接的に担ったということです。昨年は、今後の展示計画に対する御意見もいただくなど、県民ニーズ把握の窓口の一つともなっています。

今や当館の運営にとって友の会は不可欠の存在です。博物館の歴史は37年、友の会の歴史は2年が経過したところですが、引き続き、共に歩み、互いに発展する博物館と友の会を目指し、歴史を刻んで行こうではありませんか。

友の会・平成20年度・活動計画案

5月25日(日)午前9時30分から、博物館講堂において、総会を行ない、ご決定いただきます。
その他、事業報告、決算案、本・活動計画、予算案などもご審議いただきますので、ぜひ、ご出席くださいますよう、お願いいたします。

◎活動の原則

1. 毎月1回のイベント(講演会・見学会)実施を原則とする。
2. 博物館のイベントについて、協力してゆく。

◎イベントスケジュール

- 4月19日(土) 講演会「日本人の祖先をDNAで追う」 講師・国立科学博物館・研究主幹・篠田謙一氏(決定)
- 5月25日(日) 講演会「古事記の成立」 講師・千葉大学・教授・三浦佑之氏(決定)
- 9月21日(日) 講演会「これだけは見ておきたい埼玉の仏像ベスト10」 講師・元館長・林 宏一氏(決定)
- 11月30日(日) 講演会「埼玉県内の式内社と祭祀氏族」 講師・群馬大学・名誉教授・森田 悌氏(決定)

○以下は詳細未定のもの

- 講演会 ○「宮大工さん直伝『古建築の見どころ』」
○「古地図でわかる『さいたまのむかし』」
- 見学会 ○「埼玉の民俗行事見学ツアー『鷲宮の土師一流催馬楽』」
○「埼玉の石仏見学ツアー」
○「常陸風土記の丘・見学ツアー」
○「神奈川県立博物館・見学ツアー」
- 日本建築学会埼玉支所とのコラボレーション
○10月に予定

◎特別イベント

- 文化庁芸術拠点形成事業「サッカーのある暮らし 見つけた」への参加
○サッカー伝統スポット見学ツアー ○サッカー映画シアター
- 大鎧の着付け講座
- 遺跡発掘現場見学会
- 学芸担当者とお茶の会～「学芸員の仕事紹介」との合体形式で～
- ミュージアムグッズフェア実施への協力

理事会からのお知らせ

1. 博物館の人事異動について（敬称略・（ ）内は前職）

<新任>

- ◎副館長 石井洋子（県立総合教育センター副所長）
- ◎主席学芸主幹 柳 正博（学芸主幹）
- ◎担当部長 依田 透（県立近代美術館担当部長）
- ◎担当部長 島村和男（企業局大久保浄水場担当部長）
- ◎学芸主幹 岡本一雄（市町村支援部生涯学習文化財課主幹）
- ◎学芸主幹 大和 修（県立さきたま史跡の博物館学芸主幹）
- ◎学芸主幹 石川博行（県立さきたま史跡の博物館学芸主幹）
- ◎主任学芸員 伴瀬宗一（県立自然の博物館主任学芸員兼県立川の博物館主任学芸員）
- ◎学芸主幹 今井 宏（市町村支援部生涯学習文化財課付 熊谷市教委派遣）
- ◎主任学芸員 服部 武（市町村支援部生涯学習文化財課主査）
- ◎学芸主幹 宮 昌之（県立さきたま史跡の博物館主任学芸員兼県立嵐山史跡の博物館主任学芸員）
- ◎主任 遠藤浩文（朝霞県土整備事務所主任）
- ◎学芸員 池田伸子（県立近代美術館学芸員）

<退職>

- ◎主席学芸主幹 昼間孝次 ◎学芸主幹 石岡憲雄

<異動>

- ◎県立加須げんきプラザ所長 橋本 整（副館長）
- ◎市町村支援部生涯学習文化財課主査 野中 仁（学芸員）
- ◎市町村支援部生涯学習文化財課主幹 田中英司（学芸主幹）
- ◎市町村支援部生涯学習文化財課付 桶川市教委派遣 岡本健一（主任学芸員）
- ◎県立さきたま史跡の博物館学芸主幹 市川 修（学芸主幹）
- ◎県立文書館主任学芸員 針谷浩一（主任学芸員）
- ◎川口青陵高・事務長 橋本真澄（担当課長）
- ◎企業局庄和浄水場担当部長 石川 澄（担当部長）

2. 友の会の担当について

- ◎上記の異動により、当会をご担当いただく「企画担当」は次の方々となりました。

岡本一雄さん 宮 昌之さん 加藤かな子さん 金子雅則さん

- ◎これまでご担当いただき、また、見学会のご案内もしていただいた石岡さん、今泉さんはさきたま史跡の博物館の専門員となりました。

☆これまで、友の会を影になり、日向となってご支援いただいた方々に心からお礼を申し上げます。

それぞれの場所でのご活躍をお祈りし、ますますのご友誼をお願い申し上げます。

古事記の成立

○古事記偽書説について○古事記の序文は偽書だったのか○古事記、日本書紀の違いは何か
など、古事記成立の謎に迫るⅡⅡこのお話を聞かずに、古代史、古代文学を語ることはできません。

講 師 三 浦 佑 之 先 生 （千葉大学・文学部教授）
と き 平成20年5月25日（日）午後1時半～3時
と ころ 埼玉県立歴史と民俗の博物館・講堂（東武野田線・大宮公園駅下車5分）

参加無料

参加ご希望の方はハガキに住所・氏名・電話番号を記入し、5月22日（木）までに〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館内 博物館友の会へ。お申込みいただいた方はご参加いただけます。

主催 埼玉県立歴史と民俗の博物館

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成20年5月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

塔の見える風景

友の会 副会長 中村 均

平成十四年の早春、古墳見学ツアーに参加して吉備路を訪ねました。集落を一つ抱え込むほど巨大な造山古墳や作山古墳にも目を奪われましたが、この旅で最も印象に残ったことは行く先々で視界に入ってくる備中国分寺の五重塔の存在です。冬枯れの田野の先に、あるいは溜池越しに、そこからの風景の主人公として必ず顔を出す塔の姿は忘れ難いものでした。

吉備路にかぎらず、日本各地に見られる五重塔、三重塔には独特の魅力があります。建造物としての造形美だけではなく周辺の自然や田畑あるいは街並みと一体化した、たたずまいのよさは日本の古典的景観として世界に誇れる一級の文化遺産だと思います。

植木で有名な安行台地の北辺にある西福寺に、元禄六年（1693）建立の三重塔が残っています。樹林を突き抜けてそびえる宝輪が夕日を浴びるときらきら輝くさまが、我が家のベランダから遠望できる位置にあり、季節の折々に散歩がてらよく訪ねます。仏様に対して、とくに信仰心があるわけでもなく、仏教の経典を読みこんだこともないのですが、ここに来ると私は何ともいえない居ごちのよさ、棲みごちのよさを感じます。無意識のうちに、塔の姿からあるいは塔の見える風景から、仏の教えを感じ癒されているのかもしれない。考えて見ますと、古代飛鳥の地に始めて仏塔が建立されて以来現代に至るまで、おおよその日本人は経典など読まなくても、塔や伽藍の点在する風景から仏教を理解していたのではないのでしょうか。

また建築学者で五重塔研究の泰斗、上田篤氏は塔の心柱は古代からの柱信仰につながるといふ説を出されています。自然の巨木や長大な掘立柱は、天から神が降臨する場であるとして神聖視されてきました。五重塔や三重塔の心柱は、建物の構造材というより、その信仰を受け継いだもので、外郭は大陸渡来の技術でも芯にあるものは伝統的な文化に基づく建物だということです。まさに神様も仏様もごっちゃんに御参りする私たちの宗教観に最も合った拝所だといえます。

吉備路の旅以来、今まで何気なく見過してきた幾つもの塔のこと、そして日本の各地に大切に遺され護られてきたまだ見ぬ多くの古い塔、それらの塔の魅力を改めて私なりに味わい、何かを感じてみたいと思うようになりました。平安時代後期、都の周辺には大小取り混ぜ百数十基の塔が林立していたとのことで、貴族の間ではそれらを巡礼する百塔詣でが流行っていました。そんな貴族の一人、藤原忠親が遺した日記「山槐記」によりますと三日間で128基を巡ったと書かれています。今、日本に残る古塔（近世以前の建立）は五重塔が22基、三重塔は国指定文化財に限っても56基、多宝塔、宝塔は同じく46基あります。到底3日間で巡れる範囲にはありませんが、私も平安貴族を見習って百以上の古塔を巡りたいと志しています。

友の会・平成20年度総会・開催！

5月25日（日）午前9時30分から12時まで、博物館講堂で行ないます。ぜひ、ご出席のうえ、会員のため、博物館のため、建設的なご意見をお寄せください。

19年度事業報告・決算・監査報告・20年度活動計画案・予算案・人事案をご審議ください。

友の会・平成20年度・活動計画案

◎活動の原則

1. 毎月1回のイベント（講演会・見学会）実施を原則とする。
2. 博物館のイベントについて、協力してゆく。

◎イベントスケジュール

- 4月19日（土）講演会「日本人の祖先をDNAで追う」
講師・国立科学博物館・研究主幹・篠田謙一氏
- 5月25日（日）講演会「古事記の成立」 講師・千葉大学・教授・三浦佑之氏
- 6月21日（土）見学会＜神奈川県立歴史博物館と横浜市内＞
- 7月31日（木）見学会＜鷲宮の土師一流催馬楽＞
- 8月 見学会＜埼玉最新発掘展＞ 詳細未定
- 9月21日（日）講演会「これだけは見ておきたい埼玉の仏像ベスト10」
講師・元館長・林 宏一氏
- 10月 日本建築学会埼玉支所との協働行事 詳細未定
- 11月15日（土）見学会 詳細未定
- 11月30日（日）講演会「埼玉県内の式内社と祭祀氏族」
講師・群馬大学・名誉教授・森田 悌氏
- 12月 講演会＜古地図でわかる「さいたまのむかし」＞ 詳細未定
- 1月 見学会＜常陸風土記の丘＞ 詳細未定
- 2月 見学会＜埼玉の石仏＞ 詳細未定
- 3月 講演会＜宮大工さんから聞く「古建築の見どころ」＞ 詳細未定
- 3月 遺跡発掘現場見学会

◎特別イベント

- 大鎧の着付け講座 講師・伊澤昭二氏
- 学芸担当者とお茶の会～「学芸員の仕事紹介」や「学芸員の展示解説」との合体形式で～
原則として、見学会実施の月にあわせて行なう。
- ミュージアムグッズフェア実施への協力

◎6月の見学会は21日(土)、横浜市中区の神奈川県立歴史博物館、開港資料館、旧燈明寺三重塔をはじめ国重文の建物が九つもある庭園・三溪園、磯子区三殿台遺跡・考古館をバスで訪ねます。午前8時・大宮駅西口ソニックビル裏側発、参加費5000円、ご案内・宮学芸主幹の予定。詳細は次号発表。

H20.4.19 歴史講演会アンケート結果

ご参加数 148 回収数 86 □は回答数

- この講演会をお知りになったのは～ (該当の番号に○をおつけください。複数回答可)
 - 新聞 18 (紙名: 朝日 7 読売 4 定年時代 5 その他 2)
 - 案内のチラシ 16 (入手した場所は: 当館 14 その他 1 無回答 1) (3) 友の会ニュース 33
 - 知人・友人からの紹介 19 (5) 博物館のホームページ 1 (6) 友の会のブログ 2
 - その他(具体的に:) 無回答 2
 - あなたがお興味をお持ちの歴史的な時代は、なに時代でしょうか? (該当の番号に○をおつけください。複数回答可)
 - 旧石器時代 13 (2) 縄文時代 23 (3) 弥生時代 19 (4) 古墳時代 25 (5) 奈良時代 17 (6) 平安時代 17 (7) 鎌倉時代 17 (8) 南北朝時代 9 (9) 室町時代 12 (10) 戦国時代 24 (11) 江戸時代 31 (12) 明治時代 10 (13) 大正時代 1 (14) 昭和時代(戦前) 9 (15) 昭和時代(戦後) 6 無回答 6
 - 今後、講演会にとりあげてほしいテーマは? (該当の番号に○をおつけください。複数回答可)
 - 邪馬台国・卑弥呼 28 (2) 古事記・日本書紀 32 (3) 日本の神話 28 (4) 弥生時代の始まり 17 (5) 古墳時代の始まり 18 (6) 埼玉の古墳時代 26 (7) 稲荷山鉄剣 11 (8) 飛鳥寺・仏教伝来 23 (9) 律令時代の武蔵 17 (10) 平将門 11 (11) 武蔵武士 31 (12) 埼玉の城 21 (13) 韓国考古学の最近の成果 8 (14) 旧石器時代研究の現状 8 無回答 6 (15) その他、ご自由にご記入ください。
 - ・税、兵役の歴史 ・海外との交易の歴史 ・土地神話 ・東国の渡来文化 ・日本語の研究
 - ・埼玉の中世史 ・武蔵武士の東遷、西遷 ・江戸時代のことなら何でも
 - 今後、参加したい博物館や友の会の活動は? (該当の番号に○をおつけください。複数回答可)
 - 歴史や民俗についての講演会 56 (2) 県内各地の見学会 30 (3) 県外各地の見学会 26 (4) 博物館全体のガイドツアー 5 (5) 民俗芸能講習会<今年度は秩父屋台ばやし> 4 (6) 鎧の着付け講習会 2 (7) 学芸担当者のミュージアムトーク 2 (8) 学芸員の仕事紹介 3 (9) 博物館裏方探検隊 1 無回答 17
- ※上記(5)～(9)について、○をおつけの方は案内をお送りいたしますので、ご住所・お名前・電話番号をご記入ください。 <記入が5件あった>
- ご記入いただきましたあなたは～
 - ・性別 (1) 女性 16 (2) 男性 66 無回答 4
 - ・年齢 (1) 20歳代 (2) 30歳代 1 (3) 40歳代 1 (4) 50歳代 10 (5) 60歳代 47 (6) 70歳代以上 24 無回答 3
 - ・お住い (1) さいたま市 39 (2) その他、埼玉県内 37 (3) 県外: 東京都 1 千葉県 1 栃木県 1 神奈川県 1 無回答 6
 - ・当会会員 (1) 会員である(本日入会を含めて) 38 (2) 会員ではない 39 (3) 入会を検討中 2 無回答 7
 - ・この博物館へは～ (1) 今回が初めて 13 (2) 2～5回来た 24 (3) 6～10回来た 10 (4) 11回以上 32 無回答 7
 - ・どこかの博物館へ行ったときに、ミュージアムショップは～
 - (1) 必ず立ち寄る 10 (2) たいてい立ち寄る 47 (3) ほとんど立ち寄らない 16 (4) まったく立ち寄らない 2 無回答 11

鎧！武士の姿、ここにあり || 鎧の着方、着せ方、研究講座 ||

博物館で鎧の正式な着装を学んでみませんか。

講師は伊澤昭二先生。あなたが「武士」になれる絶好のチャンス。
ぜひ、この機会を活かされるようおすすめいたします。



◎プログラム

- △学習編V①5月31日「鎧の歴史・中世編」
- ②6月7日「」・近世編」
- ③6月29日「機能と構造」
- いずれも土曜日、午後1時半～4時
- △体験編V④9月6日「体験講習・大鎧」
- ⑤9月28日「」・当世具足」
- ⑥10月18日「自主体験実習」
- ⑦11月8日「実演公开发表」
- 9月28日(日)以外は土曜日。
- いずれも午前10時～午後4時

◎参加費

- △学習編V1回・会員・高校生||無料
- 一般||200円
- △体験編V1回・会員・高校生・一般・
- いずれも500円

◎参加お申込み

- △学習編お申込みV5月30日(金)必着
- ハガキに住所・氏名・電話記入、左記
- 友の会へ。事前申込み・ポストカード進呈
- ※当日受付あり※体験編申込み受付後日
- ◎技能習得者には着装技能習得証Vあり。

伊澤昭二先生は、昭和15年生まれ。戦国史研究会所属。埼玉県文化ともしび賞受賞。学習研究社から「歴史群像シリーズ特別編集決定版 図説・戦国甲冑集IおよびII」を出版。

主催 埼玉県立歴史と民俗の博物館・埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 東武野田線・大宮公園駅下車5分・講座の開催は博物館内です

平成 20 年 6 月 10 日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

「三東雨」・・・これって何？

主席学芸主幹 柳 正 博

梅雨の季節を迎え、うっとうしい日が続きます。こんなときは、無性に青空がなつかしくなり、てるてる坊主に祈ったりします。科学技術が発達した現代は、天気予報にもさまざまな手法を取り入れているようですが、なかなか思うようにいかないのが現状です。

昔は周りの自然をよく観察し、その様子で天気の変化を察知しました。長年のデータの集積は経験則として語り継がれ、より正確な予知が工夫されました。天気の予知については、「夕焼けは晴れ」といった自然現象のほかに、各地で独特の手法が編み出されています。たとえば、どこかの山がよく見えれば晴れだとか、笠がかかれば雨というように・・・。

ここでは、こうした「天気俚諺」のうち、主として山や鉄道に視点を当てながら見ていきたいと思います。つね日ごろ目にする山を見て天気を予知する方法はわかりやすく、的を得た結果がもたらされます。県内では富士山のほか秩父、浅間、御荷鉾、赤城、日光、筑波などが目印とされています。富士山はだれからも親しまれる山ですが、戸田や和光周辺では、「富士山に笠がかかると雨になる」といわれています。また、桶川では「富士またぎの虹は大木になる」とか、白岡では「富士南に入道雲が出ると三把稲」といわれています。「三把稲」とは、収穫した稲を三把結び終わらないうちに雨が降るという意味です。県北の美里や神川、上里周辺は「御荷鉾の三東雨」といって、麦を三東たばねないうちに雨が降ることを表しています。逆に、羽生・春日部・白岡辺りでは、「筑波山が拝めれば天気よし」といわれており、その場所から見える山の方角によって予知する内容が異なります。

雷も、よく情報を把握しなければ思わぬ災難に遭うので注意が必要でした。「南の雷は大洪水のもと、北の雷は音だけで雨は少ない」（滑川町）というものもあれば、「富士南の雷は荒れる」（鶴ヶ島市）、「秩父の空鳴り」（入間市）、「日光の空鳴り」（白岡町）といった事例も見られます。いずれも、聞こえる方角によって予知の中味が異なります。

都市の発達により、今では遠くの鉄道の音などはあまり聞こえなくなりましたが、昔は鉄道の音も天気の変化を伝えるシグナルでした。さいたま市岩槻区では、「西の汽車（東北線）の音が聞こえれば晴れ、東の汽車（東武野田線）のときは雨」といわれていました。同じような例として、八潮市上大瀬では、「東武（伊勢崎線）のポーは天気、松戸（常磐線）のポーは雨」と言われています。ほかに、「鴻巣の汽笛が聞こえれば晴れ」（騎西町）とか、「高崎線の音が聞こえれば晴れ」（行田市渡柳）といわれていますが、同じ高崎線でも場所によって、「高崎線の音が聞こえると雨」（上尾市中分）という例もあります。どちらも「西風は晴れ、東風は雨」という共通項が見いだされ、先人の冷静な分析がうかがえます。

こうした天気俚諺は最新鋭の装置によるものではなく、日々の地道な観察と累積によるものですが、緻密で説得力があります。

みなさまのお住まいの地域にはどんな天気俚諺があるか、見つめられてみてはいかがでしょうか。

あなたの予定表にお書入れください、友の会のイベントスケジュール

5月25日の当会総会において、平成20年度の活動計画のご承認をいただきました。まだ、未定の部分については決定次第、逐次お知らせいたしますので、お覚えのうえ、ぜひご参加くださいますよう、お願いいたします。

◎今後のイベント

○6月21日(土) 見学会「横浜に歴史を見に行く」 ご案内・宮 昌之・学芸主幹

○7月31日(木) 見学会「鷲宮神社の土師一流催馬楽を見に行く」

○8月＝未定＝ 見学会「平成20年発掘展を見に行く」

○9月21日(日) 講演会「これだけは見ておきたい 埼玉の仏像ベスト10」

・講師 元館長・東京家政大学教授・林 宏一氏

○10月＝未定＝ 日本建築学会埼玉支所とのコラボレーション行事

○11月30日(日) 講演会「埼玉県内の式内社と祭祀氏族」

・講師 群馬大学名誉教授・森田 悌氏

○12月13日(土) 講演会「古地図でわかる『さいたまのむかし』」

・講師 埼玉大学准教授・谷 謙二氏

○1月＝未定＝ 見学会「常陸風土記の丘とその周辺」

○2月＝未定＝ 見学会「埼玉の石仏を見る」

○3月＝未定＝ 講演会「宮大工さん直伝『古建築の見どころ』」

○3月＝未定＝ 見学会「遺跡発掘見学会」

その他、博物館のイベントとあわせて、上記以外にも随時、イベントを行ないます。

◎学芸担当者とのお茶の会

原則的として、見学会の実施月に行なわれる館の行事「学芸員の仕事紹介」「ミュージアムトーク」とタイアップして、学芸担当者とのお茶の会を開催する。

◎博物館講座

○「鎧の着方、着せ方、研究講座」 5月31日(土) 6月7日(土) 6月29日(日)

9月6日(土) 9月28日(日) 10月18日(土) 11月8日(土)

指導 伊澤昭二氏

■20年度のお手伝い者

会長 宮川 進 副会長 中村 均

理事 石田 茂 石田 仁 石渡勇一 岩井隆興 上田彰一郎 遠藤久子 大野典司

金子慶子 金子 榮 小坂橋美紗子 小林都子 斉藤 亨 斉藤文孝 櫻井傳次郎

佐貫正明 下谷寛子 新開一男 瀧澤三郎 手塚 充 豊田益子 橋本九二男

平野久雄 広重孝子 三宅 隆

監事 青山定義 最上忠二

サポーター 有江良輔 上山光正 黒沢勝利 斉藤紀子 中野正晴 西本豊治 増沢勝実

まだ続く、博物館・危機の時代！！

橋下知事のもとで、大阪府の財政危機打開のため、プロジェクトチームの財政改革案が出されています。

その中に、歴史系博物館関係で、弥生文化博物館（和泉市）、狭山池博物館（大阪狭山市）、泉北考古資料館（堺市）の三館を河南町の近つ飛鳥博物館に統合するという計画が入っています。

（年間入場者数は18年度で弥生が46,143人、狭山池89,111人、泉北12,621人。）

◎この案をもとにした教委とプロジェクトチームの討議のなかで、プロジェクトチーム側は「子どもたちに歴史を教えるということでは、弥生文化博物館を近つ飛鳥博物館にもって行って、弥生、古墳、飛鳥時代という歴史の流れを子どもたちに見ていただくということがなぜいけないのかということについてはよく分からない。また現地性と言うのであれば、遺跡や古墳のあるところにはすべて博物館がいるということになる」という乱暴な発言をしている。

◎また、知事はこの時の発言で『教育日本一』をめざすということを書いて、選挙に当選したので、これは必ずめざしたい」と言っている。

◎橋下知事の考える『教育日本一』とは何なのか。全国统一テストか何かで大阪の子どもが日本一になることを目指すということなのか。大阪の子どもが「弥生文化を代表する池上曾根遺跡は大阪にあるんだ」「古墳時代の須恵器は泉北資料館のあるところで最初に作られたんだ」と自慢できるように育てることこそが『教育日本一』なのではないかと思いますが～

<6月5日、「大阪維新プログラム案」が知事から提案され、その中では「泉北考古資料館が廃止、弥生文化博物館、狭山池博物館、近つ飛鳥博物館が地元関係自治体等との協働、連携強化、市との共同運営を行なう」ものとされている。また、「大阪ミュージアム構想」が打ち出され、大阪全部をミュージアムと見立てる構想が提案された>

上記のような大阪府の出来事が、わが埼玉ではもう起こらないといえるでしょうか。「文化」というものに理解のない首長が生まれたら、博物館なんて直接効果の測定しにくい施設は「財政再建のためのヤリダマ」にあげられることは目に見えています。

頼りにするのは、あなたのような「博物館が好きなひと」しかありません。そして、そういうひとが数多くいることを、首切りプロジェクトチーム側さえ認めざるをえないようにしておかなければなりません。友の会を大きくし、活動を活発化することが博物館支援のダイナマイトです。お友達の友の会への入会勧誘、イベントへのお誘いなどは博物館への力強いご協力。よろしく願いいたします。

さらに友の会サポーター、募集中！

友の会では、さらに当会の活動をご支援くださる方を募集しています。具体的なお仕事としては休日開催の「友の会受付」を2ヶ月に1回程度お手伝いいただき、あとは無理のない範囲で、講演会や見学会のときのお手伝いをしていただける方をお願いいたします。ぜひ、土日に博物館の友の会受付へお越しください。仕事の内容についてご説明させていただきます。

横浜へ歴史を見に行く

19年度の群馬に続き、今年は神奈川県立歴史博物館！

実施日 平成20年6月21日（土）

集合 午前8時 大宮駅西口・ソニックビル西側

ご案内 宮 昌之・学芸主幹

参加費 6,000円（バス代・観覧料・弁当代など）

昼食 発売100年記念の崎陽軒シウマイ弁当

見学場所は～神奈川県立歴史博物館＝横浜開港資料館＝三溪園（旧燈明寺三重塔をふくめ国重文建物が16棟もある個人庭園）＝称名寺（浄土式庭園・北条実時などの墓）・県立金沢文庫～という豪華版！

参加お申込みはハガキに住所・氏名・電話番号を

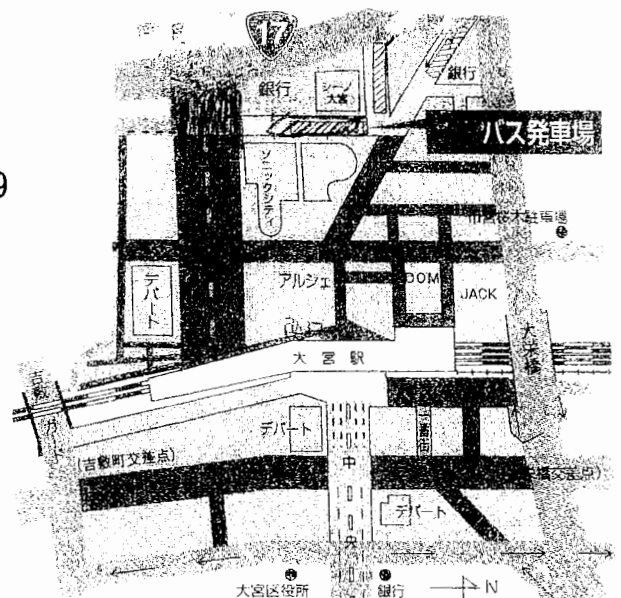
明記し、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。締切6月

14日（土）。（ご返事はいたしません）同じバスを

ご希望の場合は連名でお申込みください。ご家族・

お友達のご参加いただけます。



埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成20年7月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

考古学への道

学芸主幹 宮 昌之

かつて、考古学を専攻している友人たちに考古学を選んだ理由を聞いたことがあります。今では入学試験の時から何を専攻するか決めなくてはいけないのですが、私が入学した頃は、4年生ではじめて専攻を決めるので、3年間授業を受けてから考古学を専攻とした人が多くいました。小学校時代にツタンカーメンのマスクを見て触発されて以来考古学を専攻することを決めていたという志の高い人(私はツタンカーメンを知らずその話に相づちを打っていた記憶がある)、高校時代に歴史クラブに入っていて先生に連れられ発掘の手伝いをしたことがきっかけになったという人(私がそうでした)も数人いた記憶があります。

小・中学校時代の私は、電気が好きで「雨垂れ睡眠器」などというものを作って友人にあげたり、裸電球をはずしてソケットの中に指を入れて瞬間的に感電を楽しんだり(今では怖くてできない)、エンジニアを目指して理工系大学の高校へ進学した私ですが、入学2日目にして、その後の人生を大きく変えてしまうきっかけを自ら作ってしまったのです。

学校から受け取った多くの書類の中にクラブ活動の入部申込が入っており、何気なく学校案内の最初にあった「考古学クラブ」と書いて出してしまったのです。入部して知ったのですが、我が校には考古学を専門とする先生が当時3人もいて、文化部では最も活動が盛んでした。夏休みにはお米を一升持ち寄って、廃校を借りての半月間の発掘合宿。今後も掘ることはないであろう前方後方墳の発掘。ブッシュをかき分け平板を使って古墳を測量し、トレンチを設定して、卒業生の先輩や先生からは鏡が出るぞといわれ、どきどきしながら頂上部分を掘り進め、粘土が出てきただけでも興奮したものでした。

手弁当で行う学術発掘です。3食付きで交通費・宿泊費も自己負担なしという、開発者が費用負担する行政発掘が当時ほとんどであることを知ったのは卒業も近い頃でした。夏休みと冬休み、年によっては春休みまで発掘に出かけていました。他の部員は帰っても私と先生の2人だけの日もありました。結果エンジニアを目指す道から考古学を目指す道へ変わったのでした。その後考古学専攻のある大学へ入学でき、私の将来を変えた先生は現在土浦市立博物館の館長に、もう一人は今も母校の東京電機大学高校で教師をしています。

実は「考古学クラブ」と書いて出してしまったきっかけは中学生の時にすでにありました。近くで土器が拾えるという噂を聞いた同級生に誘われて、発掘現場(東北自動車道路建設工事の際の発掘)の廃土の山に登り、取り上げ忘れた土器を拾いに行ったのです。そのときは怒られて帰ってきました。怒られてから20年後、土器を拾いに来た私たちを怒ったのはその後の直属の上司で、怒ったことを鮮明に覚えていました。あのとき誘われて土器を拾いに行っていなければ博物館に勤める私はいなかったかもしれません。

博物館に勤めてから発掘に携わる機会が激減し、遺跡から遺物が出土する感動は味わえなくなりましたが、これまでの経験や知識を友の会の皆様に少しでも還元できればと思いますので、館内でも街中でも気軽に声をかけていただければうれしいです。

博物館のポスターを貼る、チラシを渡すご協力を！！

特別展のポスターをご自宅などに貼っていただくとか、チラシをご自分の属するグループで配っていただく～そんな博物館へのご協力を、お願いできませんか？

このたび、次のようなシステムができました。ぜひ、あなたのご協力をお願い申し上げます。

◎ポスター貼付アテンダント

ご自宅に博物館のポスターを貼っていただける方、あるいはお知り合いのお宅、商店などへポスター貼付をお願いしていただける方。どこに貼っていただけるか、ポスターが何枚必要かを、ご登録ください。ポスターが出来た都度、博物館から郵送いたしますので、指定の期間中、お貼りいただきます。

◎チラシ配布アテンダント

ご所属のグループなどで、博物館のチラシをお配りいただける方。どういうグループでお配りいただけるか、チラシが何枚必要かを登録ください。博物館から郵送いたしますので、早めにお配りください。

◇ご登録

上記をお願いできる方は、ご住所・お名前・お電話番号・ポスターの場合は「どこに貼っていただけるか～略図をつけて～」、チラシの場合はグループ名・活動内容・所属人員数を明記のうえ、ハガキで博物館企画担当（〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館）へご連絡ください。＜枚数などは調整させていただくこともあります＞

◇ご登録が無理と思われる場合は～

せつかくのお申し出にかかわらず、すでに博物館から送られている場合や、効果的に疑問がある場合などは登録をお断りすることもありますので、その節はお許しをお願いいたします。

◇途中で事情が変更となり、ご協力ができなくなった場合は、必ず、ご連絡をお願いします。

こんなかたちでも博物館へご協力を～

◎友の会の会員をふやす！

友の会の会員数はいま、約260。ことし中に、ぜひ、300をこえたいものです。やはり、数は力なりですからね。友の会が盛んになることは博物館のチカラです。そのためにも、あなたのお友達をぜひ、友の会へお誘いをお願いいたします。

◎友の会サポーターとしてのご協力を！

友の会を盛んにするのに、あなたのオチカラをお貸してください。2ヶ月に1回、土日祝に博物館で友の会受付をしていただくのは、いかがでしょうか。お一人でも加わっていただくと、みんなが楽になります。ぜひ、土日祝に博物館の友の会受付で、ようすをお聞きください。

◎博物館の展示室入館者数をふやす！

昨年度の展示室入館者数は40,518人。この数を増やすよう、一年に博物館展示室へお越しの回数を増やしていただくことも必要です。友の会会員として、頑張りましょう。

あなたの予定表にお書入れをお願いいたします。友の会のイベント

未定であった次のイベントの実施日が決まりました。ぜひ、あなたの予定表にお書き入れにう
え、当日のご参加をよろしく、お願いいたします。

- ◎学芸担当者とお茶の会 宮崎朝雄副館長と 8月10日(日)
ミュージアムトーク「縄文時代の土偶」(13:30~14:00)の終了後
- ◎見学会 <埼玉最新発掘展> さきたま史跡の博物館 8月24日(日)
- ◎日本建築学会埼玉支所との共催講演会「埼玉の川のヘソを探す」10月12日(日)
講師 NPO 法人水のフォーラム 藤原悌子氏
- ◎学芸担当者とお茶の会 石川博行学芸主幹と 1月11日(日)
ミュージアムトーク「弓の民俗」(13:30~14:00)の終了後
- ◎学芸担当者とお茶の会 駒宮史朗専門員と 2月8日(日)
ミュージアムトーク「なつかしの銀座、あこがれの銀座」(13:30~14:00)の終了後
- ◎講演会 <特別展「誕生 武蔵武士」関連> 3月14日(土)
講師・題名 未定 =博物館と共催=
- ◎講演会 <宮大工さんから聞く「古建築の見どころ」> 3月22日(日)
講師 大森建築設計事務所 大森健司氏

なお、博物館主催の行事ではありますが、今年はじめて次のイベントが行われます。博物館で
保管され、展示の機会がすくないものが見られるチャンスとのことです。

- ◎博物館資料特別鑑賞会 「美術品の鑑賞」(絵画) 12月5日(金)
- ◎博物館資料特別鑑賞会 「工芸品の鑑賞」(甲冑) 2月20日(金)

友の会の活動を支える二つのグループご紹介

友の会の活動を支える二つのグループをご紹介いたします。原則として隔月ごとに友の会の窓
口、ニュースの発送、見学会・講演会の主催などの活動をいたします。よろしくお願
いいたします。また、お一人でも多く、グループにご参加いただくと、それだけ仲間の負担が軽減
されます。

ぜひ、あなたもこのグループにお入りください。お問合せは土日祝の友の会受付へ。

Aグループ(世話人・佐貫正明)

佐貫正明 青山定義 石田 茂 石渡勇一 大野典司 上村武夫 黒澤勝利 小林都子
齋藤紀子 齋藤文孝 手塚 充 西本豊司 橋本九二男 広重孝子 増沢勝実 三宅 隆

Bグループ(世話人・岩井隆興)

岩井隆興 有江良輔 石田 仁 上田彰一郎 遠藤久子 金子慶子 金子 榮 上山光正
小坂橋美沙子 櫻井傳次郎 下谷寛子 新開一男 瀧澤三郎 中野正晴 平野久雄 最上忠二

鷺宮神社

は じ い ち り ゅ う さ い ば ら か ぐ ら

土師一流催馬楽神楽

国指定重要無形民俗文化財「鷺宮催馬楽神楽」は関東地方の神楽の源流とされ、正式には「土師一流催馬楽神楽」といわれています。現在のかたちとなったのは今から約300年前の宝永年間（1704～10）とみられています。

今回は、柳主席学芸主幹のご案内と郷土資料館での事前勉強で「分かりにくい」ともいわれる神楽を、分かりやすく拝見させていただく絶好のチャンスです。

実施日 平成20年7月31日（木）

集 合 東武伊勢崎線・鷺宮駅東口

午前9時35分

<JR大宮駅9:00発→JR久喜駅9:21着・東武久喜駅9:28発→鷺宮駅9:32着>

ご案内 博物館・柳 正博・主席学芸主幹

コ ー ス 鷺宮駅東口9:40出発→町立郷土資料館10:00着・神楽の勉強・展示見学・昼食→鷺宮神社13:00着・神楽拝見～15:00<解散>

参加費 100円（保険料など）

お申込み 参加のお申込みはハガキに住所・氏名・電話番号を記入し、7月28日（月）までに下記博物館友の会へ。

=会員以外の方もご参加いただけます。お申込みされた方はご参加いただけます=

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成20年8月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

徒然なるままに

～式年遷宮も子供の成長も時代とともに～ 学芸主幹 岡本一雄

久しぶりに伊勢路調査の機会に恵まれ、伊勢神宮を参拝しました。しかも御垣内に入っ
ての正式参拝です。暑い日でしたが、修学旅行で訪れたのでしょうか、高校生たちも五十
鈴川で手を洗い、神妙にお参りしていました。

伊勢神宮は、親しみを込めて「お伊勢さん」とか「大神宮」などとも呼ばれていますが、
正式な名称は単に「神宮」というそうです。つまり「神宮」とは、内宮と呼ぶ皇大神宮と、
外宮と呼ぶ豊受大神宮の大きな二つの社だけでなく、別宮や摂社、末社、所管社と呼ぶ総
計125社の総称とのことです。全国には多くの神宮の称号が付く神社がありますが、「神
宮」とのみ呼ばれるのは伊勢神宮だけです。

伊勢神宮では、20年ごとに遷宮が行われます。式年遷宮と呼ばれ、平成25年(2013)に
は、第62回目を迎えるといえます。内宮と外宮の社(正殿という)を始め、御垣内の建物
など全てを新造するものです。

第1回の式年遷宮が行われたのは、持統天皇4年(690)のことといわれます。以来、戦
国時代などに中絶することもありましたが、約1300年にわたって連綿と続けられ、我が国
で最も重要なお祭りのひとつとされています。

伊勢神宮の建築様式の特徴は、掘立柱に萱葺きの屋根です。現代でも釘や鋸(かすがい)
は一切使用されていません。唯一神明造と呼ばれ、古代の高床式穀倉の姿を今に伝えます。

社殿の造営と平行して御装束や神宝類も古例にならって毎回調製されています。伝統工
芸の優れた技術を守り伝えるという重要な意味もあり、伊勢神宮の永続性を実現するた
めには欠くことのできない大切な事業といわれています。なお、第62回目の式年遷宮の総予
算は550億円とうかがいました。

ところで、伊勢神宮でたまたま出会った高校生たちは、茶髪にピアス、ズボンをずり下
げた身なりです。外見上は素直に親や先生の言うことを、とても聞きそうにない子どもた
ちです。しかし、不思議なことに、誰かに強制されたわけでもないでしょうに、五十鈴川
で手水をし、参道の玉砂利を踏みしめて、社頭でしっかりとお参りをしているではないで
すか。森林に囲まれた神聖な空間、日常と違った環境は、子どもたちの心をも素直にする
のでしょうか。環境によって人の気持ちも変わります。適切な環境の変化というものは教
育にとって重要なことなのです。

そういえば、我が家の25歳になる長女も環境の変化によって大きく成長しました。大学
入学までの2月間、近くの老舗の蕎麦屋で初めてアルバイトをしたのです。評判が良く客
足の絶えない蕎麦屋の忙しさに、毎日がてんやわんやのようでした。普段から親しい女将
さんも仕事となったら別人です。新前アルバイトの挨拶、態度、配膳の指導には特に厳し
く、音を上げるかと思いました。ところが意に反して、丁寧ではきはきした対応ができる
ようになりました。心一つで誰でも変わることが出来るのです。現在、優しい女将さんの、
仕事には厳しい態度が、社会人としての手本になっていることに感謝しているようです。

土偶の勉強をしたら、ティータイムですよ !

8月10日(日)午後1時半～2時 宮崎朝雄・副館長のミュージアムトーク「縄文時代の土偶」。
そのあと、同副館長を囲んでの「お茶の会」を開催いたします。何のために作られたか諸説のある「土偶」について、「縄文時代」について、お話のひとつときをお楽しみください。
参加費は200円(コーヒー代)。事前お申込は不要です。ぜひ、当日、ロビーにお集まりください。～博物館は展示物を見るだけのためではない。専門家のお話が聞ける場所なのです。

企画展「埼玉サッカー100年」の会員対象説明会です !

現在開催中の上記企画展の友の会会員対象説明会を行なっていただきます。会員の特典です。この機会を利用して企画展をご覧になりませんか。

◎8月16日(土)と30日(土)の両日。時間はいずれも午後2時半から～
ご入場手続きのうえ、特別展示室前に午後2時半にご参集ください。

さきたま史跡の博物館シニア講座をご存知ですか ?

行田市の県立さきたま史跡の博物館では、次のようなシニア講座が行われます。ご興味のある方は 048-559-1181.1111 へお申込、お問合せを。

◎8月24日(日)「昭和43年の夏—稲荷山古墳の発掘調査—」

講師・当館専門員・駒宮史朗氏 13:30～15:30 於・史跡の博物館講堂

◎8月27日(水)「よみがえった史跡—見沼通船堀—」

講師・前さいたま市立博物館長・高山清司氏 12:00～15:30 集合・東浦和駅 12:00

◎9月13日(土)「史跡水子貝塚発掘70年」

講師・富士見市立水子貝塚資料館長・荒井幹夫氏 13:30～15:30 現地(水子貝塚資料館) 集合

8月16日(土)は学芸員の仕事紹介 !

井上主席学芸主幹の「まち調べ～文化的景観を探す～」。13:30～14:30 エントランスホール集合です。旧中仙道から入る氷川神社参道について、何が残っているか、なにが分かるか、歴史的景観のなかで探検をして見よう～との「クワダテ」です。そのあと、上記の企画展説明会へとつながります。

今年も見に行こう！最新出土品展

とき 平成20年8月24日（日）

集合 9時 JR大宮駅・改札前「豆の木」

解説 同博物館・学芸担当

行田市の県立さきたま史跡の博物館で開催中の「最新出土品展～地中からのメッセージ～」をみんなで見に行きましょう。今回は地元・埼玉古墳群の「奥の山古墳の発掘」で出たもの、河越氏の城館・河越館跡、律令期の郡役所・幡羅（はら）遺跡<深谷市>、約5000年前の大環濠集落・諏訪野遺跡<桶川市>からの出土品、菖蒲町・小林八束1遺跡から出た「空に叫ぶ、不思議な土偶」、行田市・陣場遺跡の「縄文後期の完形注口土器」～など、昨年、県下で出土した興味深いものが展示されています。

◎ご参加 どなたでもご参加いただけます。◎参加費 保険料100円

<交通費・大宮⇄吹上 960円（往復）、バス代 400円（往復）、博物館入場料 200円はご自弁。お弁当もご持参ください。>

◎ご観覧後、古墳公園前11:33発のバスで、忍城址・行田市郷土博物館へ行くオプションツアーを行ないます。ご希望の方はご参加ください。バス代100円、博物館入場料200円別途。

◎出土品展をご覧のあと、じっくり「さきたま古墳群」を見直されるのもよし、昨年オプションツアー「八幡山古墳」へ行かれて「関東の石舞台」を見られるのもよし～です。

◎ご参加のお申込みはハガキに住所・氏名・電話番号・友の会会員は会員番号を記入、下記・博物館友の会へ。8月19日（火）まで。ご返事は差し上げません。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

あなたは、いくつご覧になりましたか。

埼玉県内で、これだけは見ておいてほしいと、

仏教美術がご専門の林先生に折り紙付きの仏像をお教えいただきます。

へ埼玉県立歴史と民俗の博物館・埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会・歴史講演会へ

これだけは見ておきたい 埼玉県の仏像べすと 10

講師 林 宏一先生（東京家政大学教授・元埼玉県立博物館館長）

とき、平成20年9月21日（日）午後1時半～3時

ところ 埼玉県立歴史と民俗の博物館講堂（東武野田線・大宮公園駅下車5分）

参加無料

ご参加のお申込は8月21日（木）から9月17日（水）までに埼玉県立歴史と民俗の博物館（048-645-8171）へ。友の会会員は会員番号もお知らせください。

共催 埼玉県立歴史と民俗の博物館

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成20年9月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

楽しき哉 古（いにしえ）の大和を訪ねる旅は～

友の会 理事 斉藤 亨

最近奈良、河内方面への旅が増えている。行く度に新しい発見がありわくわくする。小学生の頃、遊び仲間とぽっかりと口を開けていた古墳の石室に忍び込み異様な世界を体験した記憶と、高校生の頃の万葉集の授業の残像がくすぶっていた古代への関心に火をつけたのかも知れない。

旅では、古墳を中心に神社仏閣、大王達の宮都跡や廃寺跡を駆け巡る。

何時だったか、額田王の終焉の地との伝承のある粟原寺跡を春の夕暮れに訪ねたことがあった。歌に隠された真意や寺跡所在の地勢などから想像するに、あの様な素晴らしい歌を残した万葉の歌人もまた、天皇位を巡る政争に翻弄されて、数奇な運命を辿った女性ではなかったかとふと思った。

また、香久山を見る度思い起こす歌がある。

持統天皇の『春過ぎて夏来たるらし白たへの衣干したり天の香久山』である。

この歌は初夏のさわやかな風景を歌った歌のように解釈されているが、果たして本当にそうなのであろうか。

大和三山のうちでは、香久山だけに「天」が付いている。何故なのだろうか。一体どんな歴史を秘めているのだろうか。なかなか納得できる説明は無い。

また、聖なる山に『白たへの衣』を干すということは一体どういうことか。柿本人麻呂による高市皇子への挽歌に「御門の人も 白たへの 麻衣着て・・・」という一節がある。ひょっとしたら白たへの衣とは喪服であって、政争でも暗示しているのだろうか。それとも逆に、香久山は王権を象徴するような山であって、皇位継承の安堵感みたいなものを歌ったものなのだろうか。そう言えば、「海原は 鷗立ち立つ・・・」と歌う舒明天皇の「国見歌」も妙である。香久山は何か怪しい山である。万葉集は表面上の解釈のみでは真意が伝わらないものが多い。日本書紀などの正史には書けなかった歴史的事実を、関連する人達の思いとともにそれとなく歌で綴った歴史ドラマの歌集なのであろうから。

古墳では、応神朝以降継体朝に至るまでの阿蘇熔結凝灰岩を使った石棺の存在が気になる。阿蘇灰色石を使ったものが瀬戸内から畿内に入り、河内王朝で普及する。やがて河内王朝の衰退と継体大王の胎動期にあわせる様に、灰色石製に取って代わって阿蘇ピンク石製が登場するが、継体王朝の終焉とともに終わる由（継体朝と如何なる関係があったのか分からないが、推古初陵の植山古墳でも阿蘇ピンク石を使った石棺が確認されている。）。ピンク石は現在峯ヶ塚古墳、今城塚古墳や東乗鞍古墳など継体陵や和珥氏・息長氏の勢力圏内の古墳で13例ほど確認されている。

近くに二上山の凝灰石や兵庫の竜山石などがあるのになぜ遠方の阿蘇産の石をわざわざ使ったのか。古来河内王朝や継体王朝と九州宇土地方とはどういう繋がりがあったのだろうか。葬儀の風習は最も保守的なものである。想像は遠く九州の地まで飛んで行く。あー、また奈良への旅に出掛けたい。

あなたの文化の秋を彩るイベント！

- ◎ 9月21日(日) 午後1時半～3時 当会・博物館・共催 <於 講堂>
講演会「これだけは見ておきたい 埼玉の仏像ベスト10」 お申込み締切ました
講師 東京家政大学教授 (元埼玉県立博物館館長) 林 宏一氏
-
- ◎10月5日(日) 午後1時半～3時 博物館主催 <於 講堂>
講演会「生と死をみつめるころ」
講師 博物館学芸主幹 岡本一雄氏
- ◎10月12日(日) 午後1時半～2時 博物館主催 <展示室入り口集合>
ミュージアムトーク「秩父事件と困民党」
講師 博物館学芸員 井上かおり氏
- ◎10月12日(日) 午前10時～11時半 当会・日本建築学会埼玉支所・共催 <於 講堂>
講演会「山からの水一滴も活かしきる先人の知恵」
講師 NPO法人 水のフォーラム 理事長 藤原悌子氏
- ◎10月12日(日) 午後12時半～2時半 日本建築学会埼玉支所主催 <於 講堂>
講演会「岩槻の歴史を活かすまちづくり活動提案」
講師 芝浦工業大学教授 伊藤洋子氏
-
- ◎10月18日(土) 午後1時半～2時半 博物館主催 <於 講座室>
学芸員の仕事紹介「資料の取扱い」
講師 博物館主任学芸員 加藤かな子氏
-
- ◎11月(日程未定) 当会主催 <バスツアー>
見学会「新設の栃木県芳賀町総合情報館(博物館)とその周辺」
ご案内 同館 林 宏子氏(埼玉県上尾市出身)
- ◎11月9日(日) 午後1時半～2時 博物館主催 <展示室入り口集合>
ミュージアムトーク「古墳の話」
講師 博物館学芸主幹 大和 修氏
- ◎11月15日(土) 午後1時半～2時半 博物館主催 <於 講座室>
学芸員の仕事紹介「板碑の拓本とり」
講師 博物館学芸主幹 鈴木秀雄氏
- ◎11月30日(日) 午後1時半～3時 当会・博物館・共催 <於 講堂>
講演会「埼玉県内の式内社と祭祀氏族」
講師 群馬大学名誉教授 森田 悌氏
-
- ◎12月5日(金) 午後1時半～3時 博物館主催 <於 講堂・講座室>
博物館資料特別鑑賞会「美術品の鑑賞(絵画)」
講師 博物館主任学芸員 西口由子氏
- ◎12月13日(土) 午後1時半～3時 当会主催 <於 講堂>
講演会「古地図でわかる『さいたまのむかし』」

講師 埼玉大学准教授 谷 謙二氏

◎12月14日(日) 午後1時半～2時 博物館主催 <展示室入り口集合>

ミュージアムトーク「稲荷山古墳出土の金錯銘鉄剣が語るもの」

講師 博物館専門員 小久保 徹氏

◎12月20日(土) 午後1時半～2時半 博物館主催 <於 講座室>

学芸員の仕事紹介「民俗工芸実演の公開まで」

講師 博物館主任学芸員 服部 武氏

◎12月21日(日) 午後1時半～3時 博物館主催 <於 講堂>

講演会「縄文時代の墓制」

講師 博物館副館長 宮崎朝雄氏

○当会主催、当会共催のものは今後詳細決定次第、「JUNO」でお知らせいたします。

○博物館主催の講演会、博物館資料特別鑑賞会は1か月前より、電話(048-645-8171)または直接、博物館へ。

博物館主催の学芸員の仕事紹介、ミュージアムトークは定員あり。事前に電話(048-645-8171)確認してください

○10月12日、伊藤洋子教授の講演会は事前申込不要。問い合わせは建築学会(048-861-2394)

鎧！武士の姿！ここにあり＝鎧の着方、着せ方、研究講座＝

すでに5月から実施中の「鎧の着方、着せ方、研究講座」は9月から、いよいよ体験講習に入ります。

次のとおりのスケジュールで行ない、1回ごとの受講も歓迎いたしますので、ぜひ、ご参加くださいますよう、お待ちしております。

◎9月28日(日) 「体験講習・当世具足」

◎10月18日(土) 「自主体験実習」

◎11月8日(土) 「実演公開発表」

講師は伊澤昭二先生。時間はいずれも午前10時～午後4時。参加費は1回500円。

事前お申込は不要です。

伊澤先生は学習研究社から「歴史群像シリーズ特別編集決定版 図説・戦国甲冑編ⅠおよびⅡ」を出版されている方。その直接のご指導を受けられるチャンスをぜひ、お逃しなく！

1年の途中となり、年会費(3月まで)を1,000円としました

ぜひ、このチャンスに、あなたのお友達、お知り合いを会員にお誘いください。バスツアーや講演会にご一緒できるのは、楽しいことですよ。チラシなどをお送りいたします。お申し付けください。ご連絡は博物館内の友の会まで。(FAXまたは郵便にてお願いいたします)

友の会からのお詫び

9月21日(日)の講演会「これだけは見ておきたい 埼玉の仏像ベスト10」につきましては、予想以上の参加お申込みをいただき、締切17日以前に定員オーバーとなりました。友の会会員の方にも、お断りをさせていただかねばならない心苦しい事態となりましたことを、心からお詫び申し上げます。今後かかることのないよう注意いたしますので、お許しの程お願いいたします。

山からの水一滴も活かす先人の知恵

～こんなに水を有効に使っているところはない～

日本最大の平野をすみからすみまで潤して流れている水～。自然のままに流れているのではない。自然を活かし利用されつつ、流れているのだ。藤原梯子さんは埼玉の「水」の専門家。この地に住む私たちが誇れる先人の知恵＝「他県にはない、水の有効活用」＝をお教えいただきます。

講師 藤原梯子氏

(NPO 法人 水のフォーラム 理事長)

とき 平成20年10月12日(日) 午前10時～11時半

ところ 埼玉県立歴史と民俗の博物館講堂

(東武野田線・大宮公園駅下車5分)

参加費 無料 <資料代 100円>

お申込み 参加のお申込みはハガキに住所・氏名・電話番号を記入し、10月8日(水)までに下記博物館友の会へ。(定員150になり次第締切ります)

＝会員以外の方もご参加いただけます。お断りを連絡しない場合はご参加いただけます＝

日本建築学会関東支部埼玉支所
埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会